

国立病院機構熊本医療センター

No.152



発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096)353-6501(代)  
FAX (096)325-2519

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

# くまびょうNEWS

## 平成21年度 第2回開放型病院連絡会開催迫る

平成21年度第2回（通算28回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る2月20日（土曜）午後6時30分より、当センター地域医療研修ホールで開催されることになりました。紹介症例の呈示、総合討議に続きまして、今回は厚生労働省医政局 総務課 保健医療技術調整官 中野滋文先生の「我が国の医療提供体制等について（仮題）」と題しての特別講演を企画させて頂きました。多数のご参加を頂きますようご案内申し上げます。看護部門、事務部門、MSWの方などのご参加も歓迎いたします。

当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。

（副院長 河野文夫）

### 第28回 開放型病院連絡会のご案内

日 時：平成22年2月20日（土）  
午後6時30分～9時00分  
場 所：地域医療研修センターホール（当院2F）

- － 内 容 －
1. 紹介症例の呈示（ミニレクチャー）
  2. 総合討議
  3. 特別講演

「我が国の医療提供体制等について（仮題）」  
厚生労働省医政局 総務課  
保健医療技術調整官 中野 滋文 先生

#### 【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課  
電話 096-353-6501 内線2311（高倉・牧野）  
住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

## 駐車場利用方法の変更(一方通行の実施)について

当院駐車場では、ご迷惑をおかけしております。21年1月くまびょうNEWSでご案内していました、仮設駐車場への乗り入れの一方通行及び仮設駐車場の一部拡張が完了しました。

21年1月18日（月）より、当院駐車場は、新病院玄関前入口より旧病院（工事エリア）を時計回り（右回り）とする一方通行となりました（右図「仮設駐車場場内案内図」を参照ください）。

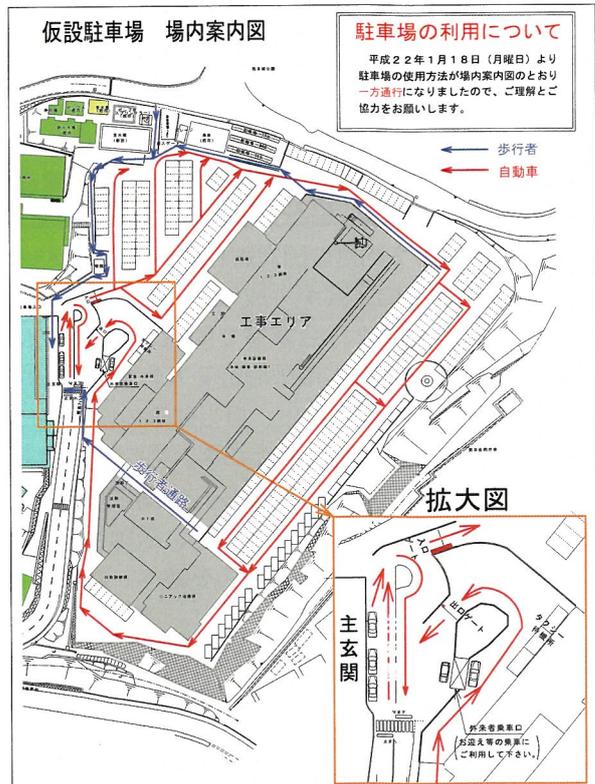
一方通行に併せて、二の丸公園側に一部仮設駐車場を設置し、今回増設しました仮設駐車場と併せて318台となりました。仮設駐車場より病院玄関への歩行者通路につきましては「歩行者専用通路」を確保しましたが、一部自動車通路と交錯する部分がありますので、通行には十分な注意をお願い致します。併せて、駐車場係員の指示に従って頂くようお願い致します。

また、お迎え等の乗車につきましては、狭い玄関前をお願いしていましたが、一方通行に併せて出口ゲート付近に「外来者乗車待合所」を設置致しましたのでご利用ください（下図「仮設駐車場場内案内図」を参照ください）。

現在、旧病院解体工事を進めており、病院敷地内の駐車スペースが変更となることがあります。変更の都度病院内掲示板等を利用し、ご案内申し上げます。

患者さま及びご利用頂く医療機関の皆さまには、駐車スペース、仮設駐車場の水はけの問題で、ご不便とご迷惑をおかけ致しますがよろしくお願い致します。

（企画課長 森 幸一）





## 『方言は良かばい』

医療法人 かぜ

植木いまふじクリニック

院長 今藤 雅之

植木町には字名に今藤（いまふじ）はありますが、今藤姓は一軒もありません。

私は元々は鹿児島県出身でして、植木町とは何のゆかりもありません。泌尿器科と血液透析のない地域を考えて開業しました。

当初は外来で排尿の話をしているだけなのに半分近く、言葉が判りませんでした。排尿することを「しょんべん、まる」とか、ただ単に「まる」と言います。ですから、「まる時、痛か。」と言われた私は「ところで、しょんべんする時、痛かですか。」のようなトンチンカンな会話をしていたものと思われれます。

おろ出る＝出が悪い、おろ痛か＝（比較して）より痛くない、などを初めて聞いて、日本語にも【not】があるんだ。そうか【おろよか】は【おろよか】一語ではなく、【おろ・良か】だったのかと知りました。しかも【おろ出る】は出ないんじゃない

く、出るんだけどすっきり出ない、よくでない、なんと言いだして妙なのか。

もだえる＝urgency、身がしぼる＝terminal miction pain。【へき】が未だに把握できません。背中の肩甲骨の内側にきだと思うんですが、「へきの痛か。」と言われると未だに戸惑ってしまいます。とは言え、今ではほとんど不自由なく会話できるようになりました。（と言っても、政治や時事問題は無理。）方言でないと表現できない微妙なニュアンス、方言の深みを感じます。私たちがカルテに英語に置き換えているのは大雑把に記録しているだけのようです。

当地、植木に開業して17年半、すっかり植木人になりました。今では植木町今藤から薩摩に落ちていった先祖が今藤を名乗ったのに違いないとさえ、思っています。

方言は大事な文化です。薄っぺらな標準語なんぞに訳せない『力』があります。大事な文化を残していきたいと思います。



in NYC

## 平成21年度 第2回開放型病院運営協議会開催される

平成21年度第2回目の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成21年12月15日（月曜）午後7時より当センター会議室で開催されました。協議会には委員として熊本市医師会より医師会長の福田稠先生、副会長の加来裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生がご出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、野村統括診療部長、片淵地域医療連携室長が出席いたしました。院長より、医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃の御礼を述べ、続いて福田委員長よりご挨拶をいただきました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第27回開放型病院連絡会（平成21年10月5日）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告

しました。第27回連絡会には多数の参加があり、ご参加の皆様には改めて御礼申し上げます。次の協議事項では、平成21年度第2回（通算28回）開放型病院連絡会の開催について協議され、平成22年2月20日（土曜）午後6時30分より新病院2階の地域医療研修センターで開催されることが決定しました。総会では担当診療科による症例の呈示、新病院における開放型病院の利用手順、地域連携システム（インターネットによる医療情報提供）などの説明を行うことになりました。また特別講演は、厚生労働省医政局総務課 保健医療技術調整官 中野滋文先生に依頼することになりました。次回の開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。

（副院長 河野 文夫）

# 新病院施設紹介〈3〉

## 病棟紹介

当院は、医療法病床550床（一般500床、精神50床）で運営しており、新病院移転後は全ての病棟を50床とし、5階から7階にかけて11個病棟で診療に当たっております。専門治療室は、既に紙面でご紹介した救命救急センター50床（ICU 6床含む）と、新たにCCU 4床を設置し、重篤な心臓血管疾患に対する治療体制が整いました。また、血液内科病棟には15床の無菌室が整備され、骨髄移植などの血液疾患の診療環境が飛躍的に向上しました。

さて、新病棟における最大の特徴は、何と言っても特別室（有料個室）の充実です。以前は18室しかなく、有料でも良好な療養環境を求められる患者様にご不便をお掛けすることがありましたが、新病院では107室と大幅増となりました。

特別室の種類は、1日15,000円（税込・以下同じ）の特A室（6室）、10,000円のA室（23室）、6,500円のB室（75室）、4,500円のC室（3室）の4タイプをご用意しており、各部屋にはテレビ、冷蔵庫、ワードローブ等の備品を新調し、更に全室インターネット回線を引いておりますので、パソコンをご持参いただければインターネットが使用できる環境が整っております。また、洗面台、トイレ、C室以外の部屋にはユニットバス（一部シャワー）も完備しておりますので、特別室ご希望の方があれば、是非ともご紹介いただければと考えております。

なお、その他の一般病室につきましても、1床あたり平均で約10㎡の広さを確保しておりますので、療養環境の向上に対する患者様のニーズにも充分応えることが出来ると期待しております。

（経営企画室長 末次 剛輝）



A室：ユニットバス、洗面台、テーブル、椅子、テレビ、冷蔵庫、ワードローブ、床頭台が揃っています。



7北病棟の特A室ご利用の方は、談話室も利用できます。



ユニットバス

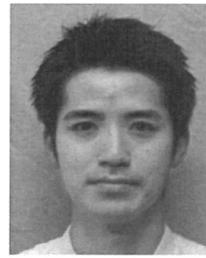
ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>



医長  
浅尾 香恵  
皮膚科一般  
日本皮膚科学会認定専門医



医師  
新森 大祐  
皮膚科一般  
日本皮膚科学会



医師  
江崎 由佳  
皮膚科一般  
日本皮膚科学会

## 診療内容・特色

当院皮膚科は主に入院を要する患者様の紹介を受け、受け入れできる体制をとっております。特に、薬疹や水疱症などの全身管理が必要な方の入院加療を行っています。

また、带状疱疹や蜂窩織炎などの感染症の患者様の入院加療や、皮膚腫瘍・皮膚潰瘍などの手術が必要な方も受け入れております。

外来診療においてはNarrow band UV照射装置を導入し、白斑や炎症性角化症（尋常性乾癬など）で難治症例の方の治療を行っています。また、2009年から難治性円形脱毛症に対してSADBE局所免疫療法を開始しました。

皮膚疾患は皮疹の治療のみではなく、適切な全身的治疗を必要とするものも多いため、当院では総合病院である特徴を十分に利用して他科との連携も図り患者様の治療にあたっています。また、患者様をご紹介いただく院外の先生方とも十分にコミュニケーションをとって患者様に満足のできる診療連携をとっていくように努力しています。

## 症例数・治療・成績

外来での新規数は、2006年度で1,595名、2007年度で1,563名、2008年度で1,492名となっております。紹

介率は48.2%となっております。当科受診にあたってはできる限り、かかりつけの医療機関からの紹介状を持参して頂くようお願いしております。複数科にわたる方が多いため、どうしても再来患者様が増えてきますが、ご紹介いただきました地域の医（病）院での継続治療を患者様にもお勧めしております。継続診療につきましてはご協力のほどお願い致します。

入院患者数は、2006年度202名、2007年度で307名、2008年度は268名でした。2008年度の平均在院日数は16.1日となっております。

手術は、皮膚腫瘍、皮下腫瘍、皮膚潰瘍に対しての腫瘍切除や植皮術などを主に行っています。

## 研究実績

院内の褥瘡に対して褥瘡対策委員会のメンバーとも協力して当院の入院患者様の入院生活がすこしでも快適になるように日々努力しております。

## ご案内

皮膚科へのご紹介は診療情報提供書（FAX送信票）をFAXして頂くか、外来受付時間外の場合は電話で連絡ください。

FAX送信票は096-353-6501(代)(内線5817)へお申し付け頂ければお届けします。時間外は救命救急センターで対応します。

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

### 最近のトピックス

#### 冠動脈CTを開始しました。



心臓血管センター  
循環器内科医長

藤本 和輝

当院では、新病院移転時に128列マルチスライスCT (SOMATION Definition AS+ : SIEMENS社製) を導入し、冠動脈CTを開始しました。

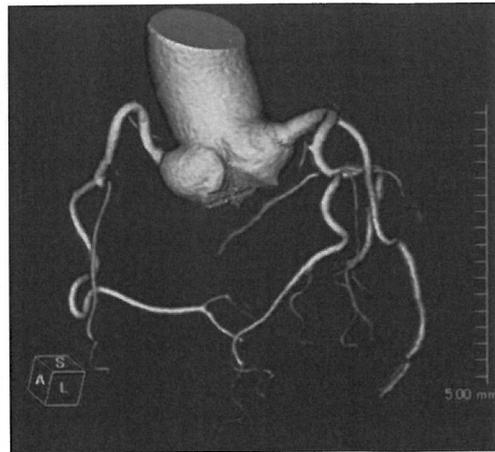
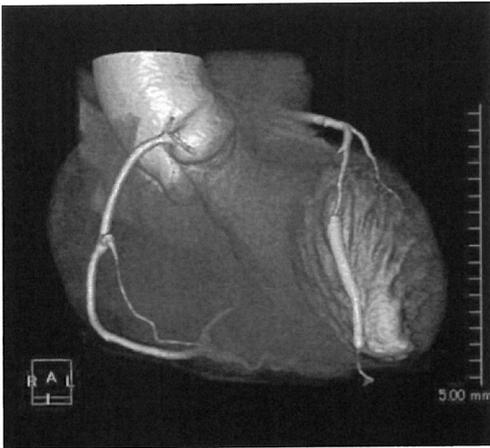
回転速度0.3秒/回転という高速回転により、より確実に心臓の動きを捉え、正確に冠動脈を描出します。冠動脈疾患の最終診断を心臓カテーテル検査で行っていますが、心臓カテーテル検査は、腕や大腿の動脈からカテーテルを挿入して冠動脈を造影し狭窄の有無等

を調べる検査で、動脈にカテーテルを挿入する検査ですのでリスクもあり入院が必要でした。一方、冠動脈CTは、造影剤を使う点では、心臓カテーテル検査と差がありませんが、静脈から点滴をするように造影剤を注入するだけですから、動脈からカテーテルを挿入する必要もなく、外来にて短時間で検査を終了することができます。

また、従来の64列マルチスライスCTよりも、時間分解能、空間分解能ともに優れた撮影が可能となり、さらに、被曝線量も低減できることから、虚血性心疾患が強く疑われる症例のみでなく、無症状の動脈硬化ハイリスク症例（高血圧症、脂質異常症、耐糖能異常、肥満、喫煙者等）においても冠動脈動脈硬化病変のスクリーニング検査に有用です。

非常に低侵襲で有用な検査ですが、造影剤を使用できない症例は、施行することができません。

冠動脈CTを希望される患者さまは、まず、循環器内科外来（月～金、受付時間 8：15～11：00）を受診下さい。その際に検査の予約を行ってもらい、後日検査を行います。



### 医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課 鶴見（TEL096-353-6501）迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで



## 第15回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催される

2010年1月16日（土）に、第15回国立病院機構熊本医療センター医学学会が、地域医療研修センターにて開催されました。本学会は、当院の全職種のスタッフが日頃の研究成果を発表し、当院の医療水準の向上を目指すとともに、お互いの理解を深めることを目的としています。今回は一般演題36題が報告されました。また、本学会は例年開放型病院登録医の先生方のご参加も頂いておりますが、今回は紫藤忠博先生（悠紀会病院）、松本孝一先生（松本外科医院）に座長をお願いし、貴重なご助言と活発な討論を行って頂きました。また外部の医療従事者の方も多く参加していただきました。

発表の内容は、研修医、レジデントの方々は臨床上貴重な症例の報告をされました。文献的考察を良くされ、示唆に富む内容が多かったと思います。また、心臓血管外科の片山 幸広先生、脳外科の植川 顕先生、精神科の西 良知先生は其々経験した症例をまとめたケース・シリーズ研究またはコホート研究の報告をされました。さらに、呼吸器内科の柏原先生は細菌性肺



活発な意見交換の様子

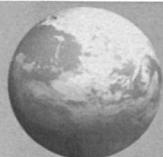
炎で入院された精神病患者の予後解析を行い、向精神薬の中止が独立した在院死亡の予後規定因子であるという新しい知見を発表されました。

看護部および看護学校からは5題発表がなされました。主にこれまで取り組んできた看護ケアや卒前卒後教育に関するもので、興味ある内容でした。中には、統計解析を行うなど、研究内容の向上が感じられました。また、事務部門からも未収金対策についてデータを示して発表しました。コメディカル部門も心エコー検査の現状や新しい放射線機器の画像処理法、精神疾患患者へのMSWの介入、国際共同治験への取り組みなど新病院にふさわしい積極的な発表が多く見られました。

本学会は職員同士の理解や認識を深めるだけでなく、学問的にも優れた内容であったと思います。今後は、さらにブラッシュアップし、全国学会で積極的に発表され、また、論文にして形に残されることを切に願います。  
(臨床研究部長 芳賀 克夫)



新機器の画像処理法について説明する井上先生



## 国際医療協力

### 平成21年度「血液スクリーニング検査向上（中米地域）」研修コース

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、JICE（日本国際協力センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成22年1月25日より1月31日まで平成21年度「血液スクリーニング検査向上（中米地域）」研修コースにグアテマラをはじめ3ヶ国8名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行っています。

(庶務班長 牧野 功)

研修は次の3項目を目標に掲げて実施されます。

1. 安全な血液供給の世界的戦略と、エイズ、成人T細胞白血病、ウイルス性肝炎、テング熱、マラリアなど血液感染疾患の管理を理解する。
2. 血液スクリーニングと評価方法についての知識と技術を習得する。
3. 血液スクリーニングシステムを理解し、各国の既存システムを改善するための提案をする。

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

## シリーズ 41回

### 中心静脈カテーテル挿入時のカテーテル関連血流感染のリスク研究

～日本独自の感染防止策をめざして～

外科医長 大堂 雅晴



中心静脈栄養とは高カロリー輸液療法とも表現され  
①手術前後の経口摂取不能な症例、②口から栄養摂取  
ができない低栄養状態な症例を対象として静脈から心  
臓にもっとも近い大静脈までカテーテル（CVC）を  
留置し栄養補給を行う方法です。またこの手技は重症  
症例に対する中心静脈圧測定のための目的、末梢血管確保が  
困難、あるいは末梢血管からの薬液投与が不適当な場  
合、他にも透析時のブラッドアクセス、肺動脈カテー  
テル、心臓ペースメーカー挿入経路などを目的として  
行われています。挿入に際して選択される血管は鎖骨  
下静脈、内頸静脈、外頸静脈、大腿静脈、上腕尺側皮  
静脈が使用されますが、通常は鎖骨下静脈、内頸静脈  
が選択されます。この挿入手技は一部静脈切開で行わ  
れますが、ほとんどが経皮的穿刺法です。この手技に  
おける合併症でもっとも注目されるのは気胸ですが、  
挿入後に起こるカテーテル関連血流感染（Catheter  
Related Blood Stream Infection:CRBSI）は時に致  
死的に至る重篤な合併症です。一旦発症するとそれに  
要する医療費増大は莫大なものとなります。日本での  
厚生労働省にあたる米国疾病予防管理センター（CDC）  
の「血管内留置カテーテルに関連する感染予防のため  
のガイドライン」では、すべてのCVC挿入時に、滅菌

のガウン、キャップ、手袋、大型ドレープを用いた最  
大無菌操作法（Maximal Barrier Sterile precautions:  
MSBP）を行うことを最高レベルで推奨しています。  
しかし、当院を中心に行った多施設の無作為比較試験  
では、MSBPと通常の滅菌手袋及び小型ドレープを  
用いた標準無菌操作法（Standard Barrier Sterile  
precautions:SSBP）では、CRBSIの発生率に全く差  
がありませんでした。また、同ガイドラインでは、  
CVC挿入時の皮膚消毒に2%クロルヘキシジン製剤を  
使用するように勧告していますが、我が国では同濃度  
での使用は禁止されています。我が国と米国では、医  
療制度や病院環境が大きく異なり、単にCDCのガイ  
ドラインを模倣するのではなく、我が国独自のCRBSI  
防止策を検討する必要があります。

現在、このような疑問を解決すべく当院外科を中心  
とし、全国14の国立病院にてCVC挿入時のCRBSIの  
危険因子を明らかにし、独自のCRBSIの防止策を作  
成する目的で2010年1月より分析研究を開始しました。  
この研究は2年間で予定し2000症例を集計し検討する  
ものであり、まだ走り出したばかりですが、2年後に  
CRBSIに関する日本独自のあらたな知見、情報を発信  
できるものと考えております。

## 小児科アレルギー外来の初診予約について

先生方には平素より患者様のご紹介で大変お世話になっております。

当科では月・金曜日にアレルギー外来を行っております。

アレルギー疾患では詳細な問診が必要ですので、初診の患者様につきましては30分～1時間ほど診察時  
間を要し、午前中、1日2名の予約制（①9時～②10時～）にて診療させていただいております。

最近はおかげさまでご紹介患者様が増えありがたく存じております。しかしながら、  
せっかくご紹介いただき受診されても、予約されていない場合は診察ができかね患者様  
にご迷惑をかけることとなります。

お忙しい中、大変お手数ですが、受診の際には患者様より前もって小児科外来  
までご予約をいただきますよう、ご指導の程よろしく申し上げます。

お電話は診療時間内（8：30～17：15）にお願いいたします。

ご予約先 TEL：096-353-6501（代表）内線3010  
小児科 緒方 美佳



## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 <sup>かわはら</sup>川原 <sup>かずひろ</sup>一洋



こんにちは。初期研修一年目の川原一洋です。4月から国立病院機構熊本医療センターでお世話になっております。早いもので初期研修もスタートしてから9カ月が経ちました。今まで神経内科、循環器内科、呼吸器内科、麻酔科をローテートし、今は救急部で研修をしています。私は、初期研修で大きな目標の一つとして基本的手技の習得を考えていました。

まず初めの神経内科では、医師として分からないことばかりで症例プレゼンテーションも難しく、退院サマリーも何度もやり直しました。しかし、問診、診察、検査から診断への課程、それに基づいた治療法の選択といった基本的な内科学、神経所見の取り方を学び、

腰椎穿刺も数回経験しました。次の循環器内科では、何といっても心カテで、右心カテを大腿静脈穿刺には自信ができました。呼吸器内科では、CVカテーテル、胸腔ドレーン挿入などを5例ずつ程経験でき、その他人工呼吸器管理、抗菌薬の使い方等を学びました。その後の麻酔科では毎日2.3例の手術に入り、全身麻酔や脊椎麻酔を毎日行い、マスク換気、気管挿管、腰椎穿刺ができるようになり、また、患者様の状態の変化に気づく力を養うことができたと思っています。今ローテートしている救命救急部では、病棟業務と救急外来での対応を行いながら急性期疾患の初期対応、全身管理を学んでいます。

また、この熊本医療センターはどこの科の先生方も優しく指導してくださり、また仕事以外の面でも飲みに来て行ってもらい、毎日忙しいながらも楽しい研修生活が送れています。特に12月は今まで回った色々な科の忘年会に出席させていただき、purfumeを踊ったりと色々大変でしたが、日頃は聞けない話ができ、さらに先生方との距離が近まったような気がしています。まだまだ周りの方々にお世話になるばかりの私ですが、これからもどうぞよろしく願いいたします。

### 臨床研修医

1年次 <sup>やの</sup>矢野 <sup>だいすけ</sup>大輔



平素よりご鞭撻を承り有難うございます。研修医1年目の矢野大輔です。

研修開始から約10ヶ月が経ち、これまでに5科を回らせていただきました。各科約2ヶ月間と目まぐるしく変わる日常の中で、医師、看護師、コメディカルの皆様には名前や顔を覚えていただき、厳しくも暖かく成長を見守ってくださっていることを感じ、本当に感謝しています。お蔭様で、約1年前 医師免許を取得したばかりの自分よりも「医師」としてのありかたに具体性が生まれ、充実した勤務を送ることができています。

これまでの研修を振り返り思うことは、医師としての手技や知識は、膨大すぎて研修期間中に十分に身につくものではなく、寧ろ、専門加療を行うにあたっては“不十分”であるということです。だから正直、自身の未熟さを痛感し、疲れてしまうこともあります。しかし、多くの症例と向き合う機会を与えられ、実際に患者様を目の前にして治療を行うことは総合医療の観点においてとても重要なことだと考えています。

また、専門分野へ細分化されてゆくとき、コンサルトの判断や能率化を図れるようになるという部分では、多角的にアプローチできる力を養い、見落としなく、正確かつ迅速に医療を展開できるようになる為の訓練であると自分なりに位置づけています。

皆様のご指導なくして、医師としての成長は有り得ません。ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、今後とも何卒宜しく願い致します。

## 平成23年度 国立病院機構熊本医療センター 臨床研修医募集要項

応募資格：平成23年3月医師免許取得見込みの方、又は、平成16年度以降医師免許取得者で卒後臨床研修を未実施の方

研修期間：平成23年4月1日から2年間

願書締切：平成22年8月6日（金）必着

問合せ先：国立病院機構熊本医療センター管理課給与係 佐野まで

〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 TEL 096-353-6501(代) 内線5621

詳細はホームページをご覧ください。http://www.hosp.go.jp/~knh/

# 研修のご案内

## 第26回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成22年2月4日(木)19:00~20:30  
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

司会 悠紀会病院長 紫藤 忠博

「高齢者悪性腫瘍治療への取り組み」

講師 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 武本 重毅

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第133回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)  
〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成22年2月15日(月)19:00~20:30  
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影講座 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「尿崩症の一例」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科 平田 敬
4. ミニレクチャー「ATLの希な病態について」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 武本 重毅

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第102回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)  
〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕  
〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成22年2月18日(木)19:00~20:45  
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「糖尿病性壊疽により足切断となった2型糖尿病」  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 花谷 聡子
2. 「国立病院機構糖尿病フットケア研修に参加して」  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 児玉 章子

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

## 第102回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成22年2月24日(水)18:30~20:00  
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「胸部疾患」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長 毛井 純一  
国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

# 2010年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研 修 室	そ の 他
1日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
2日(火)			15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
3日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
4日(木)	19:00~20:30 第26回 熊本がんフォーラム 「高齢者悪性腫瘍治療への取り組み」 司会 悠紀会病院長 葉藤 忠博 講師 国立病院機構熊本医療センター内科医長 武本 重毅		7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
5日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
6日(土)	10:00~12:00 第8回 熊本EBMセミナー		
8日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
9日(火)			15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
10日(水)	18:00~19:30 第61回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
15日(月)	19:00~20:30 第133回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
16日(火)	18:00~19:30 第51回 くすりの勉強会(公開)		15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
18日(木)	19:30~21:30 第53回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本県歯科医師会常務理事 伊藤 明彦 「心臓疾患と手術適応」 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長 毛井 純一	19:00~20:45 第102回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位数<2群>0.5単位認定]	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
19日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(日)	8:30~17:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会<総会・学会>		
22日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(水)	18:30~20:00 第102回 救急症例検討会 「胸部疾患」		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
25日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
26日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1・2 2階研修室1・2 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)